

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2019

－人・スポーツ・未来－

開催要項

1 開催趣旨

平成 27 年 10 月 1 日にスポーツ庁が発足し、平成 29 年 3 月には第 2 期スポーツ基本計画（文部科学省、平成 29 年 3 月 24 日）が策定された。第 2 期スポーツ基本計画においては、スポーツ参画人口を拡大し、スポーツ関係団体がこれまで以上に新たな取組を行うとともに、異なる分野の関係組織と効果的かつ密接に連携・協働することにより、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが求められている。

そこで、本会議では、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討する。

2 主 催

スポーツ庁、生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会（公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本レクリエーション協会、公益財団法人日本体育施設協会、公益財団法人スポーツ安全協会、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、徳島県）

3 後 援

体力づくり国民会議

4 期 日

平成 31 年 2 月 1 日（金）

5 日 程

受付 9:15- 10:00 (45)	オープニング 表彰式 10:00- 10:35 (35)	全体会 10:40-12:30 (110)	昼食休憩 12:30-14:00 (90)	分科会 14:00-17:00 (180)	情報交換会 18:15-19:45 (90)
展示：9:30-17:30					

6 会 場

J R ホテルクレメント徳島

〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1丁目61番地

TEL 088-656-3111

7 全体テーマ

「スポーツ・イン・ライフ」

第2期スポーツ基本計画では、中長期的なスポーツ政策の基本方針として、「スポーツで『人生』が変わる」「スポーツで『社会』を変える」「スポーツで『世界』とつながる」「スポーツで『未来』を創る」の四つの柱を掲げている。

スポーツは、健康や体力の維持・増進に役立つだけでなく、一人ひとりの人生をより豊かに充実させたり、人々に夢と感動を与えたり、地域社会を活性化させるなど多種多様な大きな力がある。

このスポーツの価値を広く国民に伝え、年齢や性別、障害等を問わず、全ての人がスポーツを楽しみ、喜びを得ることで、生き生きとした人生を送ることができる社会を目指すため、スポーツ関係団体等に求められる新たな方策について協議を行う。

8 内 容

(1) 全体会（トークセッション）

ア. テーマ

「スポーツ・イン・ライフを目指して～今、私たちにできること～」

イ. 趣 旨

「スポーツ」は、「deportare」（デポルターレ）という言葉の語源としているともいわれており、この「deportare」という言葉は、「気晴らしをする」、「休養する」、「楽しむ」といったことを意味している。過大な負荷をかけずとも、うまくはなくとも、目的をもって、楽しみながら体を動かすことが「スポーツ」であるという考え方を広め、国民全体にその習慣づくりを広げていくことが求められている。

そこで、本セッションでは、スポーツを通して生き生きとした人生を送ることができる地域社会をつくるために、今、私たちに何ができるのか本音で話し合う。

ウ. 演 者

○ファシリテーター

高山 大吾 氏（NHK徳島放送局 アナウンサー）

○スピーカー

鈴木 大地 氏（スポーツ庁長官、ソウル五輪 金メダリスト）

武井 正子 氏（順天堂大学名誉教授）

中野 智紀 氏（東埼玉総合病院 地域糖尿病センター センター長）

源 純夏 氏（徳島ライフセービングクラブ代表、シドニー五輪 銅メダリスト）

(2) 分科会

ア. 第1分科会 ◆公益財団法人日本スポーツ協会

「「スポーツ・イン・ライフ」に向けた女性のスポーツ環境整備」

イ. 第2分科会 ◆公益財団法人日本レクリエーション協会

「スポレク活動で人生が変わる、社会が変わる～高齢者の健康増進を進め、
地域のきずなを生み出す～」

ウ. 第3分科会 ◆公益社団法人全国スポーツ推進委員連合

「誰でも参画できる地域スポーツと豊かなスポーツライフを目指して
～スポーツによる共生社会を目指すスポーツ推進委員の役割～」

エ. 第4分科会 ◆公益財団法人健康・体力づくり事業財団

「動きたくなる街づくり＝アクティブシティへのチャレンジ」

(3) 展示

生涯スポーツ・体力づくり関係団体、企業等のスポーツ関連活動を幅広く紹介するため、展示を実施します。

○展示時間 平成31年2月1日（金）9：30～17：30

9 参加者

地方公共団体関係者、スポーツ・レクリエーション団体関係者、各種産業界関係者、学識経験者、その他関係者（約700名）

平成31年1月11日（金） 募集期間を延長しました！

10 参加申込み（締切日：~~平成30年12月21日（金）~~）

本会議に参加を希望される方は、以下のURLよりお申込みをお願いします。
なお、インターネットによるお申込みができない場合は、下記までお問合せください。

<インターネットによる申込み>

<https://req.qubo.jp/lifelongsport19/form/entry>

スポーツ庁または公益財団法人日本スポーツ協会のホームページからも申込みいただけます。
「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2019」と検索してください。

<問合せ先>

〒160-0022 東京都新宿区新宿一丁目18番13号 協建新宿一丁目ビル5階

マッシュコーポレーション株式会社内「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2019」係
担当：藤田・由井

E-mail：lifelongsport19@mash-inc.co.jp TEL：03-6380-4621

（受付時間：9時30分から17時30分、土日祝日・12月29日～1月6日を除く）

11 参加費等

- （1）参加費 1人2,000円（資料代込み）
- （2）弁当代 1人1,200円（希望者のみ）
- （3）情報交換会会費 1人5,000円（希望者のみ）

〔振込方法〕

参加申込み受付確認後、請求書を申込代表者あてにE-mailにて送付（E-mailがない場合は郵送）いたしますので、請求書を御確認の上、指定の口座に期限までにお振り込みください。

12 留意事項

参加費等については、理由の如何を問わず、お振り込み後の返金はいたしません。なお、参加申込みをされた本人の理由により参加できなかった場合は、本全国会議終了後に配布資料を送付いたします。

また、お申込時に登録いただいた個人情報については、本全国会議開催に係る事務以外の目的に使用いたしません。

13 その他

詳細およびご不明な点等については、下記までお問合せください。

スポーツ庁健康スポーツ課健康・体力づくり係	
Tel 03-5253-4111（内線 2998）	Fax 03-6734-3792
公益財団法人日本スポーツ協会スポーツ推進部国内課（実行委員会事務局）	
Tel 03-3481-2215	Fax 03-3481-2284

なお、本全国会議は、以下のとおり各主催団体の公認資格に係る更新のための研修等に該当します。御不明な点は、各団体にお問合せをお願いします。

- （公財）日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修の一つとなっています。ただし、水泳、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、剣道、空手道、バウンドテニス、エアロビック（上級コーチのみ）、チアリーディング（コーチのみ）、スクーバ・ダイビング、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、プロゴルフ（教師・上級教師）、プロテニス、プロスキーの資格者については、各団体の定める条件を満たさなければ資格を更新できません（2018 年 4 月 1 日現在）。詳細及び手続に関しては、（公財）日本スポーツ協会のホームページを御参照ください。
なお、テニスの指導者は、2 ポイントの実績になります。

- （公財）健康・体力づくり事業財団が認定する健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新のための単位を 2 単位取得することができます。

- （公財）日本体育施設協会が認定する公認指導者の資格更新要件の一つとなっています。詳細及び手続に関しては、（公財）日本体育施設協会のホームページを御参照ください。

＜第1分科会＞ 公益財団法人日本スポーツ協会

1. テーマ

「スポーツ・イン・ライフ」に向けた女性のスポーツ環境整備

2. 趣 旨

一人ひとりの日常生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」を実現する上では、誰もがスポーツに参画しやすい環境の整備が必要である。ただし、スポーツに関する人々のニーズや抱える課題等は、年代・性別・障害の有無等により異なることから、環境整備に向けた施策は、ターゲット（対象）毎に検討することが求められる。

さて、第2期スポーツ基本計画では、その対象の一つに「女性」を取り上げ、女性のスポーツへの参加（参画）を促進するための環境整備によって、スポーツを通じた女性の活躍促進を施策目標に掲げた。なお、女性のスポーツ環境を整備するにあたっては、女性の身体的特徴といった「医学的側面」及びスポーツへのイメージ、スポーツ参加（参画）の気軽さ、シャワー・更衣室等の環境面といった「社会・心理的側面」への配慮が必要であり、私達の日常生活におけるスポーツ環境を支援するスポーツ団体等においても、上記側面に関する知見を学ぶことには意義があると考えられる。

そこで、本分科会では、「スポーツ・イン・ライフ」に向けたスポーツ環境について、「女性」をキーワードとして協議や意見交換を行うこととしたい。

3. 講 師

○コーディネーター

ヨーコ ゼッターランド 氏 公益財団法人日本スポーツ協会常務理事

○パネリスト

「女性とスポーツにまつわる健康課題」

川原 貴 氏 一般社団法人女性アスリート健康支援委員会会長

「子どもの発育発達と女性の運動・スポーツ」

佐々木 玲子 氏 慶應義塾大学教授

「障がい者のスポーツ推進から見る女性のスポーツ環境」

増子 恵美 氏 公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

＜第2分科会＞ 公益財団法人日本レクリエーション協会

1. テーマ

スポレク活動で人生が変わる、社会が変わる

～高齢者の健康増進を進め、地域のきずなを生み出す～

2. 趣 旨

スポーツ・レクリエーション（スポレク）プログラムを活用して人生を変え、社会を変える試みについて、高齢者の健康増進に焦点を絞って考える。

運動やスポーツが苦手、運動やスポーツには関心がないという高齢者が、①体を動かす楽しさを発見し、運動やスポーツを継続することで健康を増進させ、地域社会とのつながりを生み出している事例、②楽しく体を動かしながら体力、心理的活力、認知機能のいずれも向上することが検証できた事例などのスポレク活動を通じて、より元気に生き生きと人生を過ごし、かつ、地域社会にきずなを生み出し、地域社会の空洞化を改善するための実践方法を考える。

3. 講 師

○コーディネーター

石井 直方 氏 東京大学大学院総合文化研究科・新領域創成科学研究科 教授

○パネリスト

「高齢者の健康増進、地域社会のきずなを生むスポーツ・レクリエーションプログラム」

河原塚 達樹 氏 公益財団法人日本レクリエーション協会 常務理事

「体を動かす楽しさを発見し、継続させながら地域のつながりづくり

～復興支援でのスポーツ・レクリエーションプログラムの事例から～」

佐藤 喜也 氏 NPO 法人福島県レクリエーション協会 事務局長

「スポーツ・レクリエーションプログラムの実施効果について

～体力、心理、認知機能の変化から～」

牧迫 飛雄馬 氏 国立学校法人鹿児島大学医学部保健学科 教授

＜第3分科会＞ 公益社団法人全国スポーツ推進委員連合

1. テーマ

誰でも参画できる地域スポーツと豊かなスポーツライフを目指して

～スポーツによる共生社会を目指すスポーツ推進委員の役割～

2. 趣 旨

第2期スポーツ基本計画は、スポーツに参画する人口の拡大により「1億総スポーツ社会」の実現を目指している。そして、スポーツを通じて活力があり絆の強い社会を実現するために、障害者スポーツの推進、スポーツを通じた健康増進、女性が活躍する男女共同参画の推進、スポーツを通じた経済・地域の活性化について具体的施策が提案されている。

これら施策の中でも、障害者スポーツの推進や男女共同参画の実現は、スポーツを通じた「共生社会」の構築に連動するものであるとともに、人々の多様性や異質性を認め合い相互に支え合う地域スポーツの仕組みは、総合型地域スポーツクラブが目指してきたスポーツコミュニティでもある。

そこで総合型地域スポーツクラブを例にしながら、障害者スポーツの推進や女性の積極的参画を促す方法論や課題について検討する。そして、スポーツによる共生社会の考え方や可能性を確認するとともに、誰でも参画できる地域スポーツと豊かなスポーツライフの実現に向けたスポーツ推進委員の役割や課題を考える。

3. 講 師

○コーディネーター

行實 鉄平 氏 久留米大学人間健康学部 准教授

○パネリスト

「スポーツ権を保障するスポーツ環境の醸成」

佐藤 和子 氏 NPO 法人うだつコミュニティースポーツクラブ（徳島県美馬市）

「ファミリースポーツへの期待とスポーツコミュニティの形成」

長尾 香織 氏 NPO 法人みわスポーツクラブ（広島県三次市）

「地域スポーツが拓く共生社会とスポーツ推進委員への期待」

奥田 睦子 氏 京都産業大学現代社会学部健康スポーツ社会学科 教授

＜第4分科会＞ 公益財団法人健康・体力づくり事業財団

1. テーマ

動きたくなる街づくり＝アクティブシティへのチャレンジ

2. 趣 旨

スポーツ・運動の継続が健康づくりに必要であることは広く周知されているが、個人の努力のみで生活習慣を改善していくことは難しい。一方で、公園や遊歩道といった社会環境の整備が個人のスポーツ・運動行動に影響を与えることに関する知見が蓄積されつつある。自然に動いてしまう、動くことを楽しくさせてしまう街が、生活の中にスポーツ・運動を根付かせる効果的なアプローチの一つになりうると考えられる。

おりしも、2019年は生涯スポーツの世界的組織であるTAFISAによるワールドコングレスが東京で開催される。本組織は、IOCのサポートのもと、Active Well-Being Initiativeや、トリプルAC（アクティブシティ、アクティブコミュニティ、アクティブシチズン）キャンペーンを展開しており、東京2020大会が日本の街をアクティブに変えていくスタートとなるよう、世界から関係者が集い討議する予定である。

そこで、本分科会では、諸外国のアクティブシティの事例も見ながら、日本型アクティブシティへの応用とその期待される効果について協議・共有することを目的とする。

3. 講 師

○コーディネーター

山口 泰雄 氏 神戸大学名誉教授 / TAFISA理事
TAFISA-JAPAN理事

○パネリスト

「社会環境がいかに人間の運動行動に影響するか」

岡田 真平 氏 公益財団法人身体教育医学研究所所長

「アクティブシティキャンペーン～身体活動増進を目指したプロモーション」

玉澤 正徳 氏 公益財団法人笹川スポーツ財団研究調査グループ長
TAFISA-JAPAN理事

「動きたくなる街づくりへの挑戦～フレイル予防プロジェクトの取組から～」

石毛 雅之 氏 千葉県柏市保健福祉部福祉政策課課長